

奈良工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	プログラミング	
科目基礎情報							
科目番号	0026			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	「やさしいC第4版」, 出版社: SOFTBANK Publishing, 著者: 高橋麻奈						
担当教員	櫛 弘明						
到達目標							
1) C言語で使う演算子を理解しこれを用いてプログラムを書くことができる. 2) 条件文を理解しこれを用いてプログラムを書くことができる. 3) 繰り返し文を用いてプログラムを書くことができる. 4) 配列を理解し, これを用いたプログラムが書ける. 5) 関数の利用の仕方および引数の利用にしかたを理解し, これを用いてプログラムを書くことができる. 6) ポインタについて理解し, 配列とポインタおよび関数とポインタを用いたプログラムを書くことができる. 7) ファイルを用いて入出力処理が出来る.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程 (本科1～5年) 学習教育目標 (2)							
教育方法等							
概要	身の回りにある家電製品や工業製品を動かすには機器を制御するためのプログラムが必要である。本講義ではこうした制御プログラムを作成するために使われているプログラミング言語の一つであるC言語について学習する。						
授業の進め方・方法	演習中心の授業である。講義項目ごとにプログラミングの課題に取り組み, 各自の理解度を確認する。また, 定期試験返却時に解説を行い, 理解が不十分な点を解消する。						
注意点	関連科目 情報数学, 計算機アーキテクチャ, アルゴリズムとデータ構造との関連が深い。 学習指針 C言語によるプログラミング演習が中心の授業であるが, 文法や仕組みを説明できるまで理解することが重要である。						
学修単位の履修上の注意							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	プログラム仕組み		プログラム開発環境やコンパイラの仕組みを説明できる。		
		2週	統合開発環境		プログラムの統合開発環境を使いこなすことができる。		
		3週	テキストエディタ		開発環境のテキストエディタを使いこなすことができる。		
		4週	プログラムの記述		読みやすいプログラムやコメントを記述することができる。		
		5週	画面への出力		標準入出力の仕組みや改行について理解している。		
		6週	変数の利用		変数の宣言・識別子・変数の型について説明ができる。		
		7週	前期中間試験		授業内容を理解し, 試験問題に対して正しく解答できる。		
		8週	試験返却・解答		試験問題を見直し, 理解が不十分な点を解消する。		
	2ndQ	9週	キーボードからの入力		入力の仕組みについて説明できる。		
		10週	式と演算		式に値を入力する方法について説明できる。		
		11週	演算子の種類		インクリメント, デクリメント演算子について説明できる。		
		12週	演算子の優先順位		複数ある演算子の優先順位を使いこなすことができる。		
		13週	関係演算子と条件		If文, switch文, 論理演算子について説明ができる。		
		14週	繰り返し		For文, while文, 処理の変更方法について説明ができる。		
		15週	前期末試験		授業内容を理解し, 試験問題に対して正しく解答できる。		
		16週	試験返却・解答		試験問題を見直し, 理解が不十分な点を解消する。		
後期	3rdQ	1週	配列の基本		配列の宣言・配列の初期化・添字についての説明できる。		
		2週	配列の応用		多次元配列・文字列と配列・文字列操作についての説明		
		3週	関数		関数の定義・関数の呼び出しについての説明できる		
		4週	戻り値と引数		戻り値のしくみ・引数の渡し方についての説明できる		
		5週	関数の利用		最大値を求める関数・関数形式マクロについての説明できる		

		6週	変数とスコープ	ローカル変数・グローバル変数についての説明できる。
		7週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。
		8週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。
	4thQ	9週	ポインタ	アドレスとポインタのしくみについての説明できる。
		10週	引数とポインタ	関数に引数を渡す方法についての説明できる。
		11週	配列とポインタの応用	配列とポインタの関係についての説明できる。
		12週	関数とポインタの応用	関数ポインタのしくみについての説明できる。
		13週	構造体と共用体	構造体型・共用体型のしくみについての説明できる。
		14週	ファイルの入出力	ファイルにアクセスする方法について説明できる。
		15週	後期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答できる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	1	
				論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3	
				コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	1	
				コンピュータにおける初歩的な演算の仕組みを理解できる。	1	
				データの型とデータ構造が理解できる	3	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	プログラミング	変数とデータ型の概念を説明できる。	3	前6,後1,後2,後13
				代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。	3	前10
				制御構造の概念を理解し、条件分岐や反復処理を記述できる。	3	前12,前13,前14
				プロシージャ(または、関数、サブルーチンなど)の概念を理解し、これらを含むプログラムを記述できる。	3	後3,後4,後5,後6
				与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラムを記述できる。	3	前4
				ソフトウェア生成に必要なツールを使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	3	前1
				主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。	1	前1
				ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。	1	前2,前3
				要求仕様に従って、標準的な手法により実行効率を考慮したプログラムを設計できる。	1	前3
	分野別の工学実験・実習能力	情報系分野【実験・実習能力】	情報系【実験・実習】	与えられた問題に対してそれを解決するためのソースプログラムを、標準的な開発ツールや開発環境を利用して記述できる。	3	前1
				ソフトウェア生成に利用される標準的なツールや環境を使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	3	前1
				ソフトウェア開発の現場において標準的とされるツールを使い、生成したロードモジュールの動作を確認できる。	3	前1
				与えられた数値を別の基数を使った数値に変換できる。	3	前6,前10,前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	0	10	60
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10